

令和7年度全国学力学習状況調査の結果 京都市立松陽小学校

総合結果(国語科・算数科・理科・児童質問紙)

国語科・算数科・理科ともに、全国平均と比べると、本校の平均得点はそれを上回った結果となりました。

国語科では、特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」の領域のポイントが高く、算数科では「数と計算」「データの活用」の領域のポイントが高くなっていました。理科では「生命」「地球」を柱とする領域のポイントが高くなっていました。また、児童質問紙から「人が困っているときは、進んで助けていますか」「授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」といった質問に9割以上が肯定的に答えており、友達をはじめとする周囲の人々を思いやり、大切にしながら、生きていきたいという態度が育まれていることが伺えました。

国語科

【成果】「知識及び技能」の観点では、学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題で、全国平均を大きく上回っていました。

「書くこと」では、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる記述式の問題では、昨年度、課題があった内容ではありました。今年度は全国平均を上回る結果となりました。

成果がみられる問題				
問題形式	問題番号	出題の趣旨	正答率(%)	
			本校	全国
記述	2三	目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。	75.0	61.3
短答	2四 ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。	93.4	81.6

【課題】大問1設問3(1)「話すこと・聞くこと」の領域では、本校正答率が全国平均を下回った結果となりました。バスの運転士にインタビューしている様子を読み、小森さんが(ア)のように発言した目的として適切なものを選択する問題でした。自分の聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができていない児童が多く、課題がみられました。

大問3設問3(1)の「読むこと」の領域でも、全国平均を下回る結果となりました。資料を基に、言葉の変化について話し合っている場面で、発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する問題でした。目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がみられました。今後の指導では、目的に応じて必要な情報かどうかを確かめたり、情報と情報がどのような関係にあるのかを考えたりしながら読むことができるよう指導することを大切に取り組んでいきます。

算数科

【成果】全体的によくできており、どの領域においても全国平均を上回った結果となりました。特に、昨年度課題のあった「データの活用」の領域では、大きく平均を上回りました。児童が必要なデータを読み取れているかを確認するために、授業の中でデータを読み取って捉えたことを伝え合う活動を大切に取り組んできました。伝え合うために、データの特徴や傾向を捉え判断した理由を他者に分かりやすく表現できるように積み重ねてきたことが生かされた結果となりました。

また「数と計算」の領域の問題も、全国平均を大きく上回る結果となっていました。計算をする力や、問題場面の数量関係を捉えて式に表したり、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述したりする力がついていることが伺えます。

【課題】右の大問3(3)は、数直線上に示された数を分数で書く問題であり、(4)は、異分母の分数の加法の計算です。異分母分数の計算については、9割以上の児童が正解しているにも関わらず、(3)のように、数直線上で1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることについては課題があると考えられます。このことから、今後の指導では、図などを使いながら、0から1までが何等分されているのかに着目できるようにし、単位分数をイメージしながら捉えることができるようになります。

【大問3(3)】(課題が見られた問題)

(3) 次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう。 (4) $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ を計算しましょう。



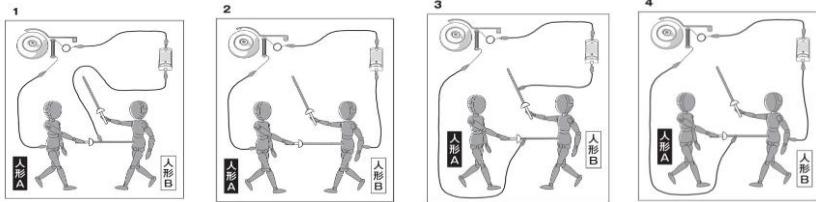
理科

【成果】「地球」を柱とする領域の「思考・判断・表現」の問題では、結果や問題に対するまとめを基に、他の条件での結果を予想して表現することができており、全国平均を大きく上回った結果となっていました。

記述式の問題が2つあり、どちらも全国平均を大きく上回りました。これまでの授業で、問題を解決するまでの道筋を構想し、根拠のある予想や仮説や解決の方法を発想したりするなど、自分の考えをもつことを大切に取り組んできた成果が表れた結果となりました。

【課題】下の問題2(2)は、電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときに、ベルが鳴る回路はどれかを選ぶ問題です。多くの児童が「電気を通さない持ち手」が回路の一部に含まれることで、回路の一部が切れて電気が通らないということを理解し、表現することができないと考えられます。今後の指導では、学習を通して得た知識を活用して理解を深めることを更に大切にし、取り組んでいきたいと思います。

(2) 「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね（ベル）が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。下の1から4までのなかから1つ選んで、その番号を書きましょう。



児童質問紙調査から

【設問11】「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」

(①…当てはまる ②…どちらかといえば当てはまる ③…どちらかといえば当てはまらない ④…当てはまらない)

本校(令和7年度)→①…83.1% ②…15.6% ③…1.3% ④…0%

全国(令和7年度)→①…73.7% ②…22.7% ③…2.6% ④…1.0%

【成果】「将来の自分の姿」「社会への貢献」に関する質問の回答について、ほとんどの児童が肯定的な回答をしています。自分のためだけに生きるのではなく、誰かのために行動することも大切にして生きる姿勢が定着している要因として、主体的に取り組むことを大切にする授業実践や本校が授業研究で取り組んでいる「学級活動」が挙げられます。

【設問35】「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか。」

(①…当てはまる ②…どちらかといえば当てはまる ③…どちらかといえば当てはまらない ④…当てはまらない)

本校(令和7年度)→①…46.8% ②…42.9% ③…7.8% ④…1.3%

全国(令和7年度)→①…40.9% ②…44.0% ③…11.5% ④…2.7%

【成果】日頃から本校が大切にしている「対話的な学び」の取組が、児童の思考力やコミュニケーション力の育成に良い影響を与えていていることを示していると考えています。授業の中での話し合いや、友だちとの意見交換を通じて、子どもたちは自分の考えを整理し、他者の視点に触れてことで新たな気づきを得る経験を積んでいます。今後も、自分と周りの人、どちらも大切にしながら、よりよい学校生活を創造できる力が育てられるように取り組んでいきます。

保護者の皆様へ

本校では、「仲間と共に高め合い、夢に向かって挑戦し続ける子どもの育成」という学校教育目標のもと、保護者や地域の皆様方の協力を得て、教職員一丸となって取組を進めております。

全国学力学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題解決をしたりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものではありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果をみると、昨年度同様、学力は着実に伸びてきており、ご家庭でのお子様に対する積極的な関りや指導・支援の成果が表れています。今後も引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力を願いいたします。

京都市全体の調査結果につきましては、京都市教育委員会のホームページにて後日掲載されます。そちらも併せてご覧ください。